

1 学校教育目標

○かんがえて ○めあてをもって ○たくましく 友だち思いの亀田の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上に取り組む学校 ・心の教育に取り組む学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を掲げて取り組む学校 ・体力の向上に取り組む学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く学習する児童 ・友達を大切にする児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって取り組む児童 ・健康づくりにはげむ児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・考える授業を展開する教師 ・一人一人を大切にする教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・認め励まし伸ばす教師 ・子どもと共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

令和6年度は全校で20学級とコミュニケーション教室「かがやき教室」の編成、全校児童数641名でスタートした。素直で、子供らしく、優れた能力をもつ児童が多い。そのため、落ち着いて、楽しく学校生活を過ごせる環境である。155名が卒業し、87名が入学。今後は児童数が減少していくことが予想される。

【前年度の成果と課題】

○学力の確実な向上

この6年間、授業方法やパワーアップタイム、放課後補充教室、ステップ学習等の学力向上の取組を改善しながら組織的に取り組んできた。その成果が確実に出てきている。令和6年度足立区学力定着度調査 目標通過率 国語 97.1% 算数98.4% 2教科平均97.8%。区の平均を10ポイント以上上回った。全国学力調査(6年生対象)でも全国の平均正答率を国語 8.7ポイント 算数12.2ポイント 2教科平均10.4ポイント上回った。今後も個の習熟度やつまずきに応じた指導や学力向上の取組を実施し、全児童に学力を確実に定着させるとともに、思考力、表現力、学びに向かう力を高めていく。

○豊かな心の育成

児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分のよさや友達のよさに気付き・認められる教育活動に取り組んできた。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添った生活指導にも取り組んできた。自分が好きなこと・得意なこと(クラブ活動、課外クラブ活動、地域と連携したイベント等)に挑戦できる機会を多く設定することができた。「学校は楽しい」90.1%「自分が好き」82%「よいところ・得意なことがある」95%。自己肯定感・自尊感情をより高めたい。

○体力の向上

体力向上委員会が中心となり教員の体育指導力の向上研修、体育の授業改善に取り組んだ。また、夏休みの水泳、持久走、なわ跳び旬間等の体力向上の取組も方法を工夫して実施した。児童は安全に楽しく運動に取り組むことができた。体力・運動能力調査では、91/96種目が区の平均を超えた。全国と比較すると、投力が課題となっている。今後も継続して体力向上に取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	◎	○	◎	○	◎
3	健康な体づくり、体力の向上	◎	◎	○	◎	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題				達成度 ◎○△●			
基礎的・基本的な学力の定着 表現力の育成 学びに向かう力の育成		区学力調査目標値通過率 90%以上 学期末テスト 全学年目標値通過率 80%以上	令和7年度区学力調査通過率 国語 97.1% 算数 95.4% 2教科 96.3% 学期末テスト目標値通過率 国語 88.4% 算数 84.9%	区調査通過率は昨年度より微減傾向であるが95%を超え、目標を達成した。 なお、学習の定着状況と平均正答率は86.9%と昨年度より微増であり、学力の定着は図れている。				◎			
B 目標実現に向けた取組み		新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	授業改善	全学年 全教科	年間	【ねらい・目的】 ・足立スタンダードに基づいた授業実践 ・ICTの効果的に活用した授業実践 ・小中連携の研究授業実践	児童意識調査 11月実施 保護者教育活動 診断アンケート	授業が分かる 90%以上 学力の向上 90%以上	児童意識調査の結果は93.9%と目標値を上回った。 保護者アンケートの結果は92%と目標値を上回った。	足立SD虎の巻は共通実践できている。ICTの活用も発達段階に応じて行ったが授業を含めて効果検証が課題である。	○		
新規	表現力の育成	全学年 全教科	毎日	【ねらい・目的】 各単元において話し合い活動を意図的に取り入れる。学習のまとめとして発表する機会を設定する。	児童意識調査 11月実施	自分の思いや考えを発表できる 児童 80%以上	区調査では78.1%だったが、11月に「それが好きだ」と答えた児童は68%だった。	交流や発表は意図的に取り入れている。必然性や有用性の担保が課題である。	△		

継続	家庭学習習慣の定着	全児童	毎日	【ねらい・目的】 家庭学習習慣の定着。 学年に応じた目標時間設定 目標時間に応じた課題の提示。 提出できない児童は、その日のうちに課題に取り組ませることを基本とする。 ※中、高学年には自学自習を奨励	家庭学習定着状況調査 11月実施	家庭学習定着度 90%以上	保護者からの調査回答は84%と目標値を下回った。 児童のアンケートでは「宿題がある時だけ勉強する」との回答が24%であった。	多くの学年がICTも活用するなどして丁寧に課題に取り組ませた。 調査結果を見ると、主体的に取り組むという点で課題を残した。	○
継続	ステップ学習	全児童 国語・算数	年30時間程度	【指導体制】 担任＋専科＋管理職 【ねらい・目的】 既習内容の復習や発展的内容に取り組む。 【使用教材】 A I ドリル プリント等	学期末テスト	学期末テスト正答率 低学年 80%以上 中学年 80%以上 高学年 75%以上の児童 80%以上	学年末学習定着度調査 低学年(今年度は通過率) 国語 89.4% 算数 83.0% 中学年(今年度は通過率) 国語 89.9% 算数 86.0% 高学年(今年度は通過率) 国語:86.9% 算数 85.2%	児童の実態に応じて組織的な体制を組んで取り組んだ。 国語の読解に特化したプリントの活用など有効と思える工夫を講じられた。	◎
継続	ICTの効果的な活用	全学年 全教科	毎日	【指導体制】 全教員 【ねらい・目的】 授業や学力向上の取組、家庭学習においてICTを効果的に活用。 児童がクロームブック等を効果的に活用し、主体的に活用できる力を身に付けさせる。	児童、教員の活用状況調査 毎月 児童意識調査 11月実施	・学年に応じたICT操作に関わる技能を身に付ける 95%以上 ・ICTを効果的に活用して学習できる児童 90%以上 ・A I ドリル活用 補充教室 毎回 家庭学習 毎日	・学年に応じた操作技能の定着 96.3% ・「ICTの活用で授業が分かりやすい」(下学年) 89.3% ・発表用スライドを作成できる(上学年) 96% ・A I ドリルの日常的な活用はできた。	授業や家庭学習でICTを活用できる技能は身に付いている。 理解や習熟だけでなく、意見集約や分析、表現手段としての活用もなされている。 KPIの指標を踏まえた状況把握と進行管理が課題である。	◎
継続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年 10名程度	長期休業期間 10日間 1日45分	【指導体制】 担任＋専科＋管理職 【ねらい・目的】 当該学年の復習や過去の学年にさかのぼったつまずきの解消。 【使用教材】 補充プリント等	サマースクール終了後 確認テスト	確認テスト 正答率 80%以上 つまずきを解消した児童 80%以上	確認テストの正答率 63.7% つまずきを解消した児童 83%	担任と専科、管理職等で組織的な指導体制を整備し、状況に応じた指導ができた。 目標値には届かなかったが、事後の正答率は平均で10ポイント以上伸びている。	○

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・自尊感情、規範意識を高める		自己肯定感に関する調査 全項目肯定的回答 85%以上	<85%以上> 9項目（以下例） 「学校は楽しい」 91.6% など <85%未満> 3項目（以下例） 「自分が好き」 82% など	目標に届かない項目が昨年より2項目増。全体の数値は高いが指導の重点化が課題。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	「学校は楽しい」 自己評価 90%以上 「自分が好き」 自己評価 80%以上 「よいところがある」 自己評価 90%以上	・ふれあい月間の取組 年3回 ・道徳授業の充実 ・「自分の好きなこと」「自分が得意なこと」へ挑戦 クラブ、委員会活動の充実 ・課外スポーツクラブ 琴、尺八クラブ バスケットクラブ サッカークラブ等	・ふれあい月間予定通り実施 ・道徳の授業公開、地区公開講座実施（校長の講演含む） ・自己肯定感調査より 「自分が好き」 80.6% 「自分にはよいところや得意なことがある」 95% ・課外クラブ活動における発表会、大会への参加。地域での活躍も目立つ。朝会で表彰を実施。	自己肯定感に関しては前年度の数値とほぼ変わらなかった。 今後も、よさを認め、褒める指導を継続。自分の得意なこと、好きなことに挑戦できる機会と認める機会設定していく。	○
心を育てる生活指導、特別活動の充実	生活・規律に関する 自己評価 肯定的評価 85%以上 保護者アンケート 肯定的評価 80%以上	・児童による挨拶運動の実施 ・縦割り班活動の充実 ・生活習慣調査の実施 ・QU調査の分析・活用	・挨拶運動、縦割り班活動計画通り実施 ・生活規律に関する肯定的評価 児童自己評価 88.5% 保護者評価 93.0% ・QU調査の結果を全教員で共有	取組を自己肯定感の醸成につなげる働きかけは課題。生活指導に関する取組の継続により、規範意識は高い状態を維持したが、個別指導が必要な児童も散見される。QU調査の結果は有効活用できた。	○
読書活動の充実	目標冊数達成 90%以上 図書館資料を活用した 探究学習 1単元以上	・読書旬間 年3回 ・読み聞かせ ・推薦図書コーナーの設置 ・図書支援員と連携した 図書館の整備 ・読書と学び方ノートの活用 ・探究学習の推進	・目標冊数達成は 75.4% ・読書旬間、読み聞かせは実施 ・図書支援員と連携した図書館整備や推薦図書コーナーの充実 ・探究学習や発展的な学習における図書資料の準備や活用。	目標には届かなかったが、「本を読まない」児童の割合は区平均より10ポイント以上低く、読書好きの児童は増えている。引き続き啓発に力を入れる。	○

重点的な取組事項－3		健康な体づくり、体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上を図る 規則正しい生活習慣の定着		運動が好き 85%以上 運動・体力調査 全種目区平均値以上 規則正しい生活習慣定着 80%以上	運動が好き 97% 体力調査 都平均以上 男子 39/48 女子 40/48 種目 規則正しい生活習慣定着 83.5%	授業や行事等体力向上のための取組を継続している。運動を好む児童の割合が伸びた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上 健康な生活習慣の 確立	運動が好き 85%以上 運動・体力調査 全種目区平均以上 早寝・早起等規則正しい 生活習慣定着 児童、保護者評価 80%以上	・外遊び、家庭での運動奨励 ・全校体制による体力向上の 取組の推進 ・体力調査の結果をもとにした 授業改善 ・長期休業明け生活振り返り ・養護教諭・栄養教諭による・ 健康・食育指導 ・家庭への働きかけ (保護者会、通信、HP)	<体力・運動能力調査> ・運動が好き 97% ・体力調査は今年度は都平均と比 較。91.8%の種目が上回る。 ・体育指導実技研修3回 <生活習慣調査> ・早寝 早起き 78% 朝ごはん 89% ・食育・保健指導 全学年で実施	比較対象を都に変更したが、結果は概ね良好である。取組の成果を感じる。 生活習慣では「早寝・早起き」に課題があり、家庭とも連携して指導の充実を図ることが課題である。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 向上アクションプラン

【課題】基礎学力の定着は高いレベルを維持しているが、「思考力・判断力・表現力」の育成については課題が残る。

【対策】発表や方法の工夫について力を入れてきたが、今後は思考・判断に基づく表現活動の充実を目指し、一体的に指導していくことが求められる。目的意識や相手意識を明確にした学習活動を教科や領域の特性に応じて位置づけて指導していく。

イ 豊かな心の育成

【課題】「自分が好き」と回答した児童の割合は微減し、目標を5ポイント近く下回った。自己肯定感や自尊感情は引き続き高めていく必要がある。

【対策】一人一人のよさを認め、互いのよさに気付ける指導の工夫、好きなこと、得意なことに挑戦できる機会の設定は継続して取り組む。そのうえで、学校経営方針の柱とする「夢を育む学校」を目指し、個に応じたポジティブな支援に注力する。

ウ 健康な体づくり、体力の向上

【課題】運動嗜好や運動能力は高いレベルにあると言える。この状況を維持し、小学校時代全体を通した豊かなスポーツライフの土台作りが課題である。

【対策】より運動の特性に触れ、技能を確実に身に付けることができる授業の追求と運動の日常化も視野に入れた体育的行事の精選と充実。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も授業公開や学校行事に多くの保護者や地域の皆様にご来校いただきました。また、行事等学校の教育活動に対するアンケートでは、温かいお言葉や今後に生かしてほしいと願う貴重なご意見をいただきました。皆様の声を真摯に受け止め、子どもたちの夢を育む学校の実現に向け、教育活動の一層の充実・改善・充実に教職員が一丸となって努めてまいります。今後のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

教職員の主体的で協働的な取組は大いに評価したいが、「夢を育む学校」を教職員のみで実現することは不可能であり、保護者の地域の皆様のお力添えも必要だと考える。創立 70 周年を迎える次年度はその成果を感じられるような教育活動にも取り組みたい。